

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス



前回も今回も、イロイロと波乱ぶくみのコミケット。
でも、私たち参加者1人1人がやるべき事はいつだって
変わりません。

体調と安全に注意して、自分の『好き』をそれぞれの形
で思い切り表現し、互いの『好き』を大切に、ルールを守
って大いに楽しみましょう!!

■■暑さを知り、己を知れば夏コミ危うからず■■

コミケットの会場である東京ビッグサイト。会場に到着した瞬間から、コミケットは始まっている。ビッグサイトの入り口まで、あるいは待機列までの移動、そしてぐんぐん気温の上昇する時間帯の待機（これは入場待ちにかぎらず、大手サークルや人気の企業ブースに向かう参加者は会期中にも待機列に並びことになる）。

館内に入場すれば中は人があふれ、移動や休憩さえもなかなか思うようにはいかない。そんな中で、限られた時間と体力を浪費せずに最大限の戦果を挙げるためには、ほんの少しの準備や工夫、注意の積み重ねが大切なのだ。

■熱いと暑いは別問題■

コミケットの会場での参加者の動きを考えた場合、夏コミで参加者が直面することになる過酷な環境は基本的に2つしかない。1つ目は屋外で晒される真夏の日射と、地面からの輻射熱による直接的な熱量。2つ目は混みあった館内や雨などの際の蒸し暑さだ。コミケットでの暑さ対策とは、要するにこの2つに余分な体力を奪われないようにすることなのだ。



熱い！：日射熱

主に屋外での最大の敵は太陽だ。入場待機列でも開催中の行列でも、強い日射しに直接さらされることは大きく体力を消耗する原因となる。言うまでもなく直射日光は日射病と日焼けの原因であり、特に日頃から屋外で過ごし慣れない人がいきなり長時間強い日射しを浴び続けると、そのリスクは急激に高まる。**直接肌に陽光を受けないための対策と帽子は必須だ。**

特に女性陣は脚や腕を大きく露出させたファッションはできるだけ避け、汗を蒸散しやすい素材の服に薄く風通しのいい長袖の上着（UVカットの物が望ましい）やストールなどを重ねて日射しを遮るようにしよう。男性陣も、暑くてもTシャツ1枚よりは、タンクトップやランニングの上に化繊や麻などを混紡した薄い長袖を重ねることをオススメする。また、ズボンも当然薄く風通しの良いものの方が体温上昇を避けられる。肌との間に空気層を作ることで身体が受ける熱量を低減するという仕組みだ。

扇子やうちわ、携帯扇風機などで空気層に風を送り、空気を循環させてやるとなお効果的だ。

軽度の日焼けでもコミケットの1日を過ごすには結構なダメージとなるので、甘く考えず（男女関係なく）、露出する部分には**必ず日焼け止めを塗っておく**べきだ。何はなくても、せめて首筋だけでもタオルをかけるなどして直射日光からカバーするようにしよう。ただし、雨傘同様、**会場内や待機列では周囲に危険をふりまくため日傘は使えない状況がほとんど**なので、それ以外の日除けを用意してほしい。

また、上から降り注ぐ陽光と、それによって熱せられた舗装地面からの熱気の相乗効果で、地表近くの気温はさらに高くなる上に、密集した人同士の間で空気がこもる。長時間の待機などの際には地面に直接座るよりも、折り畳みイスなどを利用して地面から少しでも高い位置に座った方が多少は楽に過ごせる。

椅子を用意しないまでも、ひたすら同じ姿勢を続けていると日射病・熱中病になる危険が高まるので、時々立ち上がって身体をほぐそう。また、周囲にぐったりしている人がいないか注意して、もしそういう人を見つけたら、一声かけて大丈夫か確認しよう。

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス



前回は今回も、イロイロと波乱ぶくみのコミケット。
でも、私たち参加者1人1人がやるべき事はいつだって
変わりません。

体調と安全に注意して、自分の『好き』をそれぞれの形
で思い切り表現し、互いの『好き』を大切に、ルールを守
って大いに楽しみましょう!!



■■暑さを知り、己を知れば夏コミ危うからず■■

コミケットの会場である東京ビッグサイト。会場に到着した瞬間から、コミケットは始まっている。ビッグサイトの入り口まで、あるいは待機列までの移動、そしてぐんぐん気温の上昇する時間帯の待機（これは入場待ちにかぎらず、大手サークルや人気の企業ブースに向かう参加者は会期中にも待機列に並ぶことになる）。

館内に入場すれば中は人があふれ、移動や休憩さえもなかなか思うようにはいかない。そんな中で、限られた時間と体力を浪費せずに最大限の戦果を上げるためには、ほんの少しの準備や工夫、注意の積み重ねが大切なのだ。

■熱いと暑いとは別問題■

コミケットの会場での参加者の動きを考えた場合、夏コミで参加者が直面することになる過酷な環境は基本的に2つしかない。1つ目は屋外で晒される真夏の日射と、地面からの輻射熱による直接的な熱量。2つ目は混みあった館内や雨などの際の蒸し暑さだ。コミケットでの暑さ対策とは、要するにこの2つに余分な体力を奪われないようにすることなのだ。



熱い！：日射熱

主に屋外での最大の敵は太陽だ。入場待機列でも開催中の行列でも、強い日射しに直接さらされることは大きく体力を消耗する原因となる。言うまでもなく直射日光は日射病と日焼けの原因であり、特に日頃から屋外で過ごし慣れない人がいきなり長時間強い日射しを浴び続けると、そのリスクは急激に高まる。**直接肌に陽光を受けないための対策と帽子は必須だ。**

特に女性陣は脚や腕を大きく露出させたファッションはできるだけ避け、汗を蒸散しやすい素材の服に薄く風通しのいい長袖の上着（UVカットの物が望ましい）やストールなどを重ねて日射しを遮るようにしよう。男性陣も、暑くてもTシャツ1枚よりは、タンクトップやランニングの上に化繊や麻などを混紡した薄い長袖を重ねることをオススメする。また、ズボンも当然薄く風通しの良いものの方が体温上昇を避けられる。肌との間に空気の層を作ることによって身体が受ける熱量を低減するという仕組みだ。

扇子やうちわ、携帯扇風機などで空気層に風を送り、空気を循環させてやるとなお効果的だ。

軽度の日焼けでもコミケットの1日を過ごすには結構なダメージとなるので、甘く考えず（男女関係なく）、露出する部分には**必ず日焼け止めを塗っておくべきだ**。何はなくても、せめて首筋だけでもタオルをかけるなどして直射日光からカバーするようにしよう。ただし、雨傘同様、**会場内や待機列では周囲に危険をふりまくため日傘は使えない状況がほとんどなので、それ以外の日除けを用意してほしい。**

また、上から降り注ぐ陽光と、それによって熱せられた舗装地面からの熱気の相乗効果で、地表近くの気温はさらに高くなる上に、密集した人同士の間で空気がこもる。長時間の待機などの際には地面に直接座るよりも、折り畳みイスなどを利用して地面から少しでも高い位置に座った方が多少は楽に過ごせる。

椅子を用意しないまでも、ひたすら同じ姿勢を続けていると日射病・熱中病になる危険が高まるので、時々立ち上がって身体をほぐそう。また、周囲にぐったりしている人がいないか注意して、もしそういう人を見つけたら、一声かけて大丈夫か確認しよう。